

第3学年 体育科学習指導案

令和2年12月11日 金曜日 5校時
第3学年1組(男子21名、女子13名)
場所 体育館

1 単元名 ゲーム(ゴール型ゲーム:タグラグビーを基にした易しいゲーム)

2 単元の目標

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、易しいゲームをすることができる。
 - ・ ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。(知識及び技能)
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えるようにすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。(学びに向かう力、人間性等)

3 運動の一般的特性

中学年のゲームは、「ゴール型ゲーム」、「ネット型ゲーム」及び「ベースボール型ゲーム」で構成され、主として、規則を工夫したり作戦を選んだり、集団対集団で友達と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びに触れることができる運動である。低学年のゲームを踏まえ、中学年では、ゲームの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができるようにし、高学年のボール運動の学習につなげていくことが求められる。また、運動を楽しく行うために、自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることなどをできるようにすることが大切である。

特に「ゴール型ゲーム」は、コート内で攻守入り交じって、ボールを手や足でシュートしたり、空いている場所に素早く動いたりする易しいゲーム及び陣地を取り合って得点ゾーンに走り込むなどの易しいゲームをすることが求められる。

4 児童の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本学級（男子21名、女子13名）は、明るく素直で、昼休みに外遊びを好む児童が多くいる。体育の学習においても積極的で、苦手になっている運動に対しても、諦めずに何度も練習に取り組み、できたときに喜ぶ姿が見られた。特に、2学期に行ったマット運動では、ポイントを理解し、様々な技ができるようになったり、友達にアドバイスをしたりする姿が見られた。できるようになってきたことが増えてきたことで、体育の学習に意欲的に取り組む児童が増えてきている。

(2) 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び技能」に関しては、1学期に実施したネット型ゲームの学習において、パス・トス・アタックの技のポイントは理解しているものの、技の習得がなかなか定着できなかった。そこで、毎時間準備運動後に同じ練習を繰り返し行い、技の習得に努めてきた。

「思考力、判断力、表現力等」に関しては、友達の動きを見て、アドバイスをする活動に取り組んできた。運動のポイントを指導することで、何を伝えればよいのかが少しずつ分かるようになってきている。授業の「まとめ」の段階で、学習カードに授業の振り返りを書かせている。「〇〇ができた。」
「〇〇ができなかった。」という表記ではなく、「〇〇さんから、〇〇とアドバイスを受けてできるようになった。」
「〇〇をするとできるようになった。」など、授業のポイントを押さえて具体的に記入することを指導している。

「学びに向かう力、人間性等」に関しては、体育の学習に進んで取り組む児童が多く、よかったところを褒め合ったり、仲間と助け合ったりして活動に取り組む姿も見られるようになってきた。しかし、ネット型ゲームの学習では、勝敗にこだわり、ゲーム内容や自分の動きを振り返ることがなかった。また、よいプレーを褒め合う姿があまり見られなかったので、授業の最後によりプレーをしたグループを称賛するようにしている。

(3) 体力の状況

本学年(男子66名、女子39名)における昨年度の体力テストの結果は以下の通りである。

段階	A	B	C	D	E
男子 (%)	9 (14%)	13 (20%)	27 (41%)	15 (22%)	2 (3%)
女子 (%)	2 (5%)	17 (44%)	12 (31%)	4 (10%)	4 (10%)
合計 (%)	11 (10%)	30 (29%)	39 (37%)	19 (18%)	6 (6%)

この結果から、A・B段階の児童が約39%、D・E段階の児童が約24%で体力に差が見られる。本年度から体育専科がT1として授業に入り、様々な学習に取り組んでいる。体育の授業の様子を見てみると、初めはどのように動いてよいか分からなかったり、初めからできないと諦めている様子が見られたりした。そこで、運動のポイントを知り、運動の苦手な児童が意欲的に運動に取り組める場を準備したり、運動量も増やしたりしながら授業に取り組んできた。また、昼休みに外遊びを奨励したりするなどしてきているので、次年度の体力テストでは体力の向上が見られるのではないかと考えている。

5 学習を進めるにあたって

本単元の指導にあたっては、陣地を取り合うゲームの特性を十分に理解させるために、タグラグビーのルールを簡易化したゲームを段階的に行い、陣地を取り合うゲームの楽しさを十分に味わわせたい。また、チームで作戦を考えたり、ゲームを振り返ったりする活動を行うことで、チームの課題を明確にし、勝敗だけではなく、チーム力の向上で喜びを感じられるようにさせたい。初めてタグラグビーを行うので、タグを取ることが難しいと考えられる。そこで、タッチラグビーを行わせる。タッチラグビーとタグラグビーの違いは、タグを取る代わりに相手をタッチするゲームである。

オリエンテーションでは、タッチラグビーの簡単なルールの説明を行い、どのようなゲームなのか見通しをもたせる。1グループを3～4人とし、9グループ編成とする。単元のゴールを、「3年1組タッチラグビー大会を行おう。」とし、大会に向けてどのような練習に取り組んでいくのかを伝える。そして、毎時間行う練習を紹介し、全員で取り組ませる。最後に、タッチラグビーは、個人プレーだけではなく、チームプレーでもあるため、協力することや勝敗を受け入れることの大切さを伝え、全員が楽しく意欲的に活動できるようにさせる。

「ねらい1」では、「ラン」「パス」「ボールを持たない動き」など基礎的な技能を高めることをねらいとし、動きのポイントを確認しながら学習を進める。その際、ボールを初めに持っている児童は、後ろに下がらず、相手につかまってもよいという意識をもたせる。また、作戦を活かしてゲームを行い、チーム力を高めることを中心に学習を進めていく。作戦を知らない児童が多くいることが予想されるので、作戦が分かるイラストを示しイメージさせる。相手がいると気持ちが焦り、作戦を活かせないことが考えられるので、相手をつけずに作戦を活かした動きをしっかりと定着させる。その後、作戦を活かせることができるようになったのかを確認するために、相手をつけミニゲームを行う。ミニゲームを行う際は、作戦カードに図示させ、どんな作戦を使うのかを明確にさせる。ミニゲーム後に振り返りを行い、改善点を考え、次のミニゲームに活かせるようにする。このような活動を繰り返し行うことで、チームや個人の課題解決を目指し、ねらい2につなげていけるようにする。

「ねらい2」では、たくさんトライできるための作戦を工夫し、タッチラグビー大会を行う。勝敗だけではなく、チーム力が高まってきたことに喜びを感じられるように、作戦が成功したときに褒めたり、友達の動きの良さを褒め合ったりする場面をつくり、意欲を高めていきたい。

本時の授業に当たっては、まず準備運動で1学期から行ってきたリズムダンスに取り組む。リズムダンスを行うことで、体を温めたり心を弾ませたりすることをねらいとする。次に、毎時間行う練習（ラン&パス）をグループで行う。次に、本時の授業のねらいを確認し、本時で学ぶ作戦（クロスパス）を伝え、動きを全体で確認する。その際、どのような作戦かが分かるイラストを示したり、教師が模範の動きを示したりすることでイメージをつかませる。その後、作戦を活かした動きの定着を図るためにグループ練習を行う。動きがある程度定着できてきたら1回目のミニゲームを行う。その際、作戦カードを活用し、本時で学んだ作戦と前時までに学んだ作戦を取り入れてミニゲームに臨むように声かけを行う。ミニゲーム後は、①作戦は成功したか、②うまくできなかったことは何か、③次のミニゲームではどのような作戦を使うのかの3つの視点で振り返りを行い、次のミニゲームに備えさせる。そして2回目のミニゲームを行い、チームや個人の課題解決を目指したい。

授業の最後には学習の振り返りを行う。学習カードに、チームや個人の課題を書かせ、次の授業に活

かしていきたい。また、よい動きをしていたチームや個人を称賛することで、次時も意欲的に活動できるようにつなげていきたい。

6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規準	<p>次の運動の行い方を知っているとともに、易しいゲームをしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作とボールを持たない動きによって、易しいゲームをしている。 	<p>規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりしているとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動に進んで取り組もうとし、規則を守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、友達の考えを認めようとしていたり、場や用具の安全に気を付けたりしている。</p>
単元の評価規準	<ol style="list-style-type: none"> ① タグラグビーの行い方について、言ったり書いたりしている。 ② ボールを持ったときにゴールに体を向けることができる。 ③ 味方にボールを手渡したり、パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりすることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 攻めを行いやすいようにするなどの規則を選んでいる。 ② ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を選んでいる。 ③ パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりするときの工夫を友達に伝えている。 	<ol style="list-style-type: none"> ① ゲームに進んで取り組もうとしている。 ② 規則を守り、誰とでも仲良くしようとしている。 ③ 用具などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④ ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑤ 友達の考えを認めようとしている。 ⑥ 場や用具の安全を確かめている。

8 本時の学習(4/8時間)

(1) 本時の目標

- ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を選ぶことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の評価項目

- ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を選んでいる。(思考・判断・表現)

9 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価項目 (評価方法) 【Aの例】	「努力を要する」と判断される児童への手立て
はじめ 7	1 整列、挨拶をする。 2 準備運動、リズムダンスを行う。 3 チーム練習を行う。 ・ ラン&パス	<ul style="list-style-type: none"> ・ リズムダンスを行うことで、体を温めたり心を弾ませたりし、運動への意欲を高めさせる。 ・ チーム練習を行うことで、基礎的な動きを高めさせる。 		
なか 33	4 本時の学習内容とねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ボールを持っている人と持っていない人はどのように動けばよいか考えよう。 </div> 5 本時に学習する作戦(クロスパス)の動きを知る。 ・ 全体で ・ チームで 6 2対1のミニゲームを行う。 ・ 1回目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作戦のイラストを示したり、教師が模範の動きをしたりすることで、児童が動きをイメージしやすくさせる。 ・ チームで動きを確認する際、初めはゆっくりとした動きで行うことで、動きを定着させていく。 ・ 本時で学習した作戦と前時までに学習した作戦を取り入れた作戦を立てさせる。1回目のミニゲームを行うことで、本時で学習した作戦がチームに合っているかどうかを確認させる。 	○ ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を選んでいる。 (観察・ワークシート) 【Aの例】 ○ ボールを持っている人と持っていない人の役割を明確に図示し、チームに合った作戦を選んでいる。 (観察・ワークシート)	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような作戦を立てればよいか分からない児童の横に教師が付き、一緒に作戦ボードを使ったり図に書いたりして作戦を考える。

	<ul style="list-style-type: none"> 2回目 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに選びたい作戦を明記しておくことで、作戦を選択しやすくさせる。 作戦ボードを活用したり、作戦を図示させることで、思考を深めさせたり、振り返りをしやすくさせたりする。 1回目のミニゲーム後に全員を集め、なぜトライできなかつたりパスがまわらなかつたりしたのかについて意見を出させ、どうすればよいのかを全員で共有する。 2回目のミニゲームに向けて作戦を立てさせ、よりチームに合った作戦を選ぶようにさせる。 2回目のミニゲームの後にも振り返りを行うことで、チームや個人の課題解決を目指す。 		
<p>まとめ</p> <p>5</p>	<p>7 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習カードに記入し、振り返る。 <p>8 片付け、整列、挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3つの視点で振り返りを書かせることで、次時のミニゲームに活かせるようにさせる。 よい動きをしていたチームや個人を称賛することで、次時も意欲的に活動できるようにさせる。 安全に留意して、協力して片付けを行わせる。 		